

瀬戸内の景勝と名刹をバスツアー、御祈祷と名物の大茶盛に満足

遠藤 渡通信員

山陰シニアクラブは、恒例の日帰りバスツアーを5月27日（日）に行った。岡山県倉敷市の児島半島にあり、瀬戸内海を臨む下津井、本州と四国を結ぶ瀬戸大橋を一望できる鷲羽山、厄除けの蓮台寺を巡るツアーである。数カ所の乗車地を經由し松江駅前で参加者が全員揃い、内田会長の挨拶でバスは片道3時間の旅に向かった。今回のツアーは24名の参加で、3名が新会員である。

下津井は江戸時代に瀬戸内航路の商港として栄え、疎の町並みが残り、また漁業も盛んで昼食は下津井名物「たこ料理」を堪能した。蓮台寺は奈良時代に阿弥陀如来、薬師如来の二尊を祀って開山され、江戸時代には備前藩主の信仰篤く、藩主自ら参拝されたという。藩主宿泊の建物が重要文化財の「蓮台寺客殿」で、建物はもとより襖絵、壁画など多くの文化財がある。中でも円山応挙の「竹鶏の図」は応挙最後の筆といわれている。ツアー参加者一同は御祈祷のあと、名物の大茶盛（直径が顔の2倍はある茶碗で抹茶）をいただき、帰路についた。



顔の2倍はある茶碗で飲む抹茶の味は？